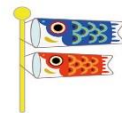


浩然

「ふるさとを愛し 自他を大切に
志高く未来を拓く生徒の育成」
香美町立村岡中学校通信
No. 2 2019. 5. 15 (Wed.)

風薫る五月



「五月」と書いて、日本書紀の時代は「さつき」と読んでいたそうです。（「皐月」と書くようになるのはもっと後の時代からです。）今でも「五月晴れ」を「さつきばれ」と読んでいます。旧暦の五月は今の6月頃にあたるので、「五月晴れ」は、実は「梅雨の合間のめったにない晴れ」を指す言葉だったのです。しかし、今では「新緑の季節にさわやかに晴れた状態」を指して使われています。「風薫る」は「青葉の季節に、青々と茂った樹木の間を風が吹き抜けていくさまを表現する語」です。夏の季語で、特に5月を示しています。

さわやかに若葉を吹き抜けてくる風を「薫風(くんぷう)」とも言います。桜が咲き誇る春から、季節はさわやかな初夏へと移っていきます。若葉、青葉の緑が輝く、生命力にあふれる季節です。

ちょっとだけ「ひとり」でいることの勇氣



昨年から、生徒たちの生活を見ていて思うことがあります。私では、うまく言えないので小説家の言葉を借りて書いてみます。全国から寄せられた相談への回答として出版されたものです。

遊園地の乗り物って、たいがい、席は二人がけだよ。ということは、人数が奇数のグループで遊びに行くと、必ず、一人が余ってしまうことになるね。(略)

中学二年生のとき、同じ野球部にいた友だち七人で遊園地に遊びに行っただけで、いろいろ考えて、いちばん仲良しのヤツに「乗り物には、ずっと一緒に乗ろうぜ」なんて言って、「俺とおまえはいつもコンビなんだぞ」っていうのを、グループの中の一人と先に決めただ。つまり、自分が余りになってしまうリスクを回避したんだよね。

(4/26 1年調理実習)→



それで、ジェットコースターの席に一人がけ、という事態は避けることができたけど、誰かが「ボートに乗ろう」って言い出して——少なくとも、ぼくはその日のパートナーをキープしていたから安心だった——やっぱり、一人が余ってしまった。ボートだって二人漕ぎだから、みんなが水の上でオールを動かしている三十分間、そいつは岸辺のベンチに座って、ずっとぼくたちに手を振ったりしていたんだ。

ぼくはすごく臆病で、余った一人になってしまう——べつに、みんなから嫌われているからでなくても、人数が奇数のグループで遊ぶときに、めぐりあわせて一人残ってしまうことが自分の身にふりかかるのが、ものすごく嫌だった。でも、岸辺で手を振っているそいつを見て、ぼくはそのとき、「負けたな〜」と思った。すごく「負けた感」を覚えたんだ。「……あいつのほうが、ぜんぜん、おとなだ」って思ったわけ。

漫画家のくらもちふさこさんの作品を読んでいて、そのときの気分を思い出したことがある。学校なんかで家庭科の実習を二人一組でやる、というシーンがでてくる作品なんだけど、クラスの女子の人数は奇数で、みんな「自分が余りになっちゃったらどうしよう」ってビクビクしているんだ。そういうときに、「私は一人でやりますから」って言って、いつも自分から「余りであること」を引き受ける女の子が登場して、その子がすごくおとなだった——って話なんだ。すごくよくわかるなあ……と思ったわけなんだけど、ボートに乗れなかったぼくの友だちも「しょうがないな」っていう感じで一人の状態を受け入れて、手を振っていた。彼を見て、ぼくは

急に自分のことが、ちっちゃな人間に思えたんだ。

もし、ボートに乗るときに、彼と同じハズレの立場になっていたら、ぼくなら岸辺のあのベンチに三十分も座っていたらどうだろうか……と考える。たぶん、できなかったらと思うな。(略)

「私が一人余ってみたおかげで、ほかの子たちはみんな助かったんだなあ」「私ってエライよね！」って、ちよつとだけ、そんなふうに思っただけ。(重松 清・著「みんなのなやみ」より 新潮文庫・刊)

部活動・春季大会の結果



(熱戦！バスケット
オープン戦)



★但馬中学校春季バレーボール大会 (4/20 豊岡北中・豊岡市総合体育館)

【男子】	リーグ 1回戦 VS 豊岡北 2-0	1回戦 VS 大屋 2-0
	リーグ 2回戦 VS 日高東 1-2	2回戦 VS 小代 2-0
	(1勝1敗) 第3位	準決勝 VS 日高西 2-0
		決勝 VS 八鹿青溪 1-2 準優勝!

★但馬中学校卓球選手権大会 (4/29 豊岡市総合体育館)

【男子団体】	1回戦 シード	【男子個人】	第2位 田中 瑠紀 (2年)
	2回戦 VS 豊岡南 3-0		第3位 今岡 功貴 (2年)
	準決勝 VS 香住二 3-0		第5位 福井 峻 (3年)
	決勝 VS 豊岡北 1-3 準優勝!		
【女子団体】	1回戦 VS 出石 1-3	【女子個人】	第3位 今岡 未貴 (3年)

★但馬中学校春季バスケットボール大会 (4/27 豊岡南中)

【男子】	1回戦 VS 養父 49-36	【女子】	1回戦 VS 豊岡北 18-99
	2回戦 VS 和田山 25-68 ベスト8		

1年・板仕野田植え体験学習

5月8日(水)、ふるさと教育の一環で毎年恒例の田植え体験学習を実施しました。今年は、昨年までの和佐父・西ヶ岡の棚田から、板仕野地区に場所を移して行いました。

全国的にも有名な板仕野米こしひかり「とろかわの恋」の産地で、今回は宇都宮大学と提携して出来た新品種「雄大」という苗を植えました。岡田政和区長さんと、田中敬二さんの指導のもと、かなり広い田んぼを約1時間半、33人が横一列になって一つ一つ丁寧に植えていきました。岡田区長さんは「中学生には、ただ体験したということではなく、しんどかったけれどやりきった！という成就感を感じて欲しかった」とおっしゃっていました。生徒たちも楽しそうな表情でがんばったあと、おいしいお弁当を食べながら、用意していただいた板仕野汁をおかわりする人もあり、たいへん充実した時間を過ごすことができました。



岡田区長さん、田中さん、熱心にご指導いただき、ほんとうにありがとうございました。

PTA総会・授業参観 ありがとうございました!

5月11日(土)、授業参観・PTA総会等へのご参加、たいへんありがとうございました。実家庭数99のうち、89人というたくさんの保護者の方々がご来校くださいました。生徒たちの様子や授業等ご覧いただく中で、今年の中中の雰囲気などもおわかりいただけたのではないかと思います。この子どもたちの笑顔を守るために、今年も「村中プライド」の醸成と「あいさつでつながり、歌声で感動を与え、清掃で心を磨く」学校づくりにますますのご支援をよろしくお願い致します。(文責：才田 覚)